

『リビアの小さな赤い実』(ヒシャーム・マタール著 金原瑞人/野沢佳織訳 ポプラ社 2007.8)

自由を求める父の夢。イスラム社会に生きる母の祈り。国家に翻弄される人々の愛と裏切り。そして「ゆるし」の物語。普段子どもの本を訳す人に子どもの本中心の出版社が出した本。主人公は9歳の少年。

子どもの本の研究書

『こども・こころ・ことば』(松岡享子著 こぐま社 01985) 子どもが育つ原点を振り返ってみましょう。

『本読みキッズの事件簿』(子ども発見ライブラリー編著 太郎次郎社エディタス 2007.3) おかあさん、おとうさん、先生、呼んでみてください。子どもへの愛情がふつふつと湧き上がってきます。

その他

旅芸人のいた風景(文春新書)/女性の品格(PHP新書)

★そしてちょっと昔の懐かしい本、ミステリー文庫等々数十冊新入庫棚に置きます。

☆☆文庫あれこれ☆☆

◆『沙羅の樹文庫』が雑誌に載りました。『あたらしい住まいの設計 12月号』(扶桑社)に建物全容が8pにわたって載っています。文庫にもありますが、図書館、書店でもご覧下さい(取材者が書いてくれた文章はちょっと気恥ずかしいのですが)。運営スタッフの中西さん、森川さんも写っています。◆おはなしの勉強会第1回がありました。おはなしは憶えなくては、と腰が重い方も一度見学にどうぞ。◆昨日夕方から勢よく降っていた雨も、やんだようです。白い雲はおおいようですが、その上には青空。夜までお天気もってほしいです。◆これから、新入庫本に、登録ナンバーやシールを貼る仕事が待っています。たくさんのおみなさんに借りていただけるよう、準備準備。◆学校で読書ボランティアをやっていらっしゃる方、参考になる本もありますので、お尋ねください。◆夜、お子さんに読んであげる短いおはなしの本(おはなしのろうそく 1冊¥340もいろいろ販売しています)◆1月に1度の開館で、都合が悪くて次の月にどうしても返却できない方、留守電に入れてくだされば、翌月でもよいです。決して、ポストへ返却はしないでください。雨に濡れる恐れも破損する恐れもあります。◆秋も深まり、日増しに寒くなります。おふとんの中で読書もよいですね。(西村)

♡♡これからの催し物予定♡♡

♡10月から、はじまりました。♡

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会

★勉強会は、毎月、文庫の前日の金曜日午後2:00から。

関心のある方は、お申し出ください。

一次回は11月16日ですー

大室高原自治会主催の文化祭に

沙羅の樹文庫も出店します。土曜の午後

ちっちゃなおはなし会 です。

♡クリスマスお楽しみおはなし会♡

12月15日午後の予定ですが、小学生のみなさんほかの行事とかさなっていないでしょうか?

昨年同様、みんなでクリスマスを楽しみましょう。

今年は地元の会員が語り手です。

どんなおはなしがとびだすやら!

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆11月は、17(土)、18(日)の両日です。

◆文庫の時間は土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、子どものための小さなおはなし会があります。

午前10:30~11:00

◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日の土曜日の2日です(従って第3土曜日ではなく第2土曜日ということもあります)。

♡会員更新ご協力、ありがとうございます♡

沙羅の樹文庫だより

No. 14

(2007年10月号)



(この写真はインターネットから拝借しました)

ここ大室の紅葉狩りはいつになるのでしょうか。

母屋の楓はまだ色づいていません。

箱根仙石原はすすきが夕日を受けて見事でした。

・・・更けゆく秋・・・

今月は大人の本がたくさん入庫しました。

新刊も、昔懐かしい本たちも、文庫本もあります。

秋の夜長は読書三昧

そして

大きいみなさん、

今年も《秋の夜長のおはなし会》を

楽しんでください。

紹介 子どもの本 おとなの本

『ボタンのくに』(中村成夫・西巻茅子作 こぐま社 1967)

ぴよんは、ぬいぐるみの うさぎです。

あかいボタンの 目をつけています。

あかいボタンが一つとれて、ころころ ころがって、ボタンのくににつきました。いろんなぼうけんをしながら、おうさまのところに、つきました。

すると そこに ぴよんからのてがみが ありました。

「ぼくの 目がかたっぽで こまったです。」と、かいて ありました。

あかいボタンは、ぴよんに とても あいたくなりました。

わたしは、はりやまのスキーじょうで あそんでいるところが、すきです。 (おおはし ゆりな 1年)

ゆりなちゃんは文庫の常連さん。1年生になって何でもひとりでできるようになったようです。だから文庫で、ひとりで本を読んで選んで借りて帰ります。でも大通りは車がたくさんスピードだして走っているから途中までおばあちゃまが迎えに来てくれます。

ゆりなちゃんの感想文を読んで、あかいボタンになって冒険したような気持ちになりました。(沙羅)

『ネルソンさん あなたは人を殺しましたか ーベトナム帰還兵が語る「ほんとうの戦争」』(アレン・ネルソン著 講談社 2003)

このタイトルを棚に見つけたとき、私は思わず手に取りました。ベトナム戦争を知らない子どもたちも、今イラクで起きていることは毎日ニュースになるので知っている

でしょう。

人種差別の中で、貧しくて、海兵隊に志願したところからはじめて、沖縄でうけた訓練のこと、そして戦場で自分が経験したことを(仲間が死ぬ事や、戦場でも子どもが生まれることなど)戦争から帰ってから心の病気になり伝えていこうと決めるのです。

「戦争」ということばから、あなたが思う事は何ですか、私たちはまだまだ知らない事が多いなあと思いました。(中西景子)

新刊・新入庫案内

子どもの本

『バムとケロのにちようび』(島田ゆか作・絵 文溪堂 初版 1994 46刷 2007)

子どもたちに大人気の「バムケロ」シリーズ。100冊突破のS君からのリクエストです。(絵本)

『ルリユールおじさん』(いせひでこ作 理論社 2006)

ある日、わたしの大好きな植物図鑑が読みすぎたせいでばらばらに壊れた。新しい本はいや。この本でなくちゃあ。私は本造りの職人ルリユールおじさんとめぐりあう……。パリの路地裏で、400年の手仕事製本の技術を守り抜くルリユールおじさん。「おじさんのつくってくれた本は二度とこわれることはなかった。そして、私は、植物学の研究者になった。」ラスト胸迫るものがあります。こんな絵本をよるこぶ子どもたちであれかし。寄贈いただきました。(絵本)

『でんでら竜がでてきたよ』(おのりえん作 伊藤英一絵 理論社 1995 初版 24刷 2006)

長崎のわらべ歌「でんでらりゅうば」などのわらべ歌を集めた本と勘違いして購入。今、4歳の孫のお気に入り歌です。でんでら竜がでてきて……。(低学年向読み物)

『チベットのものいう鳥』(田海燕編 君島久子訳 岩波書店 1977)

チベットのアラビアン・ナイト版ともいうべき、広大なお話。その中に短いおはなしがたくさんあり、それが連鎖してゆきます。鳳凰に導かれて。

おとなの本

新刊・近刊から

『よせやい』(吉本隆明著 ウェイツ 2007.9)

吉本隆明に挑戦した5人のもと若者。5回の自由対談の中から彼らは、何を学び得たか。

『祖父母業』(ゴッドフリー・ハリス著 食野雅子訳 メディアファクトリー 2007.6)

祖父母には親と違う役割があります。孫自慢やプレゼントを買ってあげることではありません、だそうですよ。

『おひとりさまの老後』(上野千鶴子著 法研 2007.7)

結婚していようがいまいが、だれでも最後はひとり。これで安心して死ぬるか(帯より)。

『私訳歎異抄』(五木寛之著 東京書籍 2007.9)

私たちはただひたすら南無阿彌陀と念仏となえる心境になれるのでしょうか?五木流歎異抄。

『日本橋バビロン』(小林信彦著 文藝春秋 2007.9)

私の育った日本橋界限ということで、懐かしくも勝手しまった1冊。先日、買い物ついでにもと我が家の周辺を訪ね歩きました。しもた屋は高層ビルに変貌していましたが、昔からのおすし屋さんはありました。

『面白半分 Best 随舌選』(佐藤嘉尚編 文藝春秋 2007.8) 1970年代に活躍した知識人の雑誌『面白半分』掲載エッセーを再集成。私たちが頑張っていましたね。

『小川洋子対話集』(小川洋子著 幻冬舎 2007.1)

田辺聖子、岸本佐和子、リー・アン、藤井省三、柴田元幸、差の元春、清水哲男、五木寛之ほか海外の作家も。

『苺をつぶしながら』(田辺聖子著 講談社 2007.1)

0さんのおかあさま、読んでいただけるでしょうか?

『楽老抄 2 あめんぼに夕立』(田辺聖子著 集英社 2007.2)

老いは楽しむためにある 人生のあじわいは深みをまして……。 (帯より)

『予定日はジミー・ページ』(角田光代著 白水社 2007.8) 出産経験のない著者の出産日記は?

『父の感触』(小林紀晴著 文藝春秋 1974 51刷)

9.11に遭遇して6年、何も書けなかった。父を送ることで心がやさしく動き出した……。

『月島慕情』(浅田次郎著 文藝春秋 2007.3) あたし、あんたのおかげでやっとこさ人間になれたよ。(帯より)